

令和4年度 全国学力・学習状況調査のまとめ

富士吉田市教育委員会

本年度実施された全国学力・学習状況調査の結果並びに考察がまとまりましたので、本市の児童（第6学年）の学習・生活状況の概要についてお知らせします。

- 実施日時：令和4年4月19日（火）
- 参加者数：小学校7校 児童数355名

1 学習の状況について

(1) 全体の結果

教科	国語	算数	理科
小6年	全国・県とほぼ同等	全国・県とほぼ同等	全国・県とほぼ同等

(2) 各教科の状況について

○=平均正答率が高い問題 ●=平均正答率が低い問題

	出題の趣旨
国 語	○話し言葉と書き言葉との違いを理解する。 ●互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる。 ●文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける。
算 数	○被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる。 ●示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる。 ●示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している。 ●示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる。
理 科	○問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えを持つことができる。 ●自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる。 ●実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記録できる。

(3) 学習状況の考察

①全体の状況

- ・教科に関する調査の平均正答率は、国語、算数、理科とも全国・県平均と比べて、±5%の範囲内にあり、ほぼ同等でした。（文部科学省では、±5%の範囲内であれば、差はないものと判断できると示しています。）
- ・全ての教科において、無回答率の割合は、全国に比べて低いです。最後まで解答しようとする態度が伺えます。
- ・問題形式について、小学校の国語、算数、理科ともにほぼ同等となっていますが、理科の「短答式」の分野で県平均を下回っていました。

②各教科の状況

○国語

- ・話し言葉と書き言葉の違いの理解や人物像や物語の全体像を具体的にとらえることはできています。
- ・文章全体の構成や展開を明確にし、具体的に感想や意見を伝えることの正答率が低くなっています。
- ・様々な表現が読み手に与える効果について、自分の考えを明らかにしていくことの正答率が低くなっています。

○算数

- ・「知識・技能」で、2つの数量の関係を比べる場合に割合を用いることがあるということの正答率が低くなっています。
- ・目的に合った数の処理の仕方の考察や未知の数量の求め方などの正答率が低く、日常生活の問題を解決するために、

知識・技能を生きて働かせ、日常生活と関連させながら考察することに課題が見られます。

○理科

- ・「エネルギー」「種子」「生命」「地球」の4領域における正答率は、全国・県と概ね同等の傾向が見られます。
- ・日光についての「知識・技能」では正答率が低くなっており、観察、実験などに関する技能を身につけることに課題が見られます。
- ・現象や実験をもとにして分析し、自分の考えを持ったり、その内容を記述するなどの正答率が低くなっています。

2 生活習慣や学習環境等に関する結果について（児童質問紙による意識調査）

望ましい状況○ 課題と見られる状況●

- 自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか。
- 難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。
- 人が困っているときは、進んで助けていますか。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
- 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
- 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。
- 算数の授業で公式や決まりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。
- 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか。
- 1日あたりゲームを2時間以上すると回答した割合は、52.0%でした。
- スマートフォンなどでSNSや動画視聴を2時間以上すると回答した割合は、37.8%でした。

■主な傾向・課題

- ・難しいことでも、自分が決めたことは最後まであきらめない様子が伺えます。
- ・困っている人を助けたり、いじめは許されないなど、高い規範意識を持っている様子が伺えます。
- ・学級内で言語活動が活発に行われ、互いの関わりを通して、共に成長していこうとする姿勢が表れています。
- ・覚えるだけでなく生きて働かせるための対話的で深い学びに向けた話し合う力が育っています。

3 今後の取組について（学力の向上に向けて、本市において次の取り組みを推進します。）

- 国語の授業において、主語と述語を適切に照応させて、文章を読んだり、文を正しく書いたりする学習場面を取り入れます。また、自分で書いた文や文章を、主語と述語との関係に注意しながら、丁寧に読み返していく学習活動を行います。
- 算数科の授業において、数学的活動（①日常の事象から見いだした問題を解決する活動②算数の学習場面から見いだした問題を解決する活動③数学的に表現し伝え合う活動）を積極的に行います。
- 理科の授業において、実験結果を基に分析して考察し、「事実」と「解釈」の両方を示しながら、記述したり、説明したりする学習活動を意図的に取り入れます。

自己肯定感や規範意識が高く、夢や希望をもって生き生きと学校生活を送っている子どもたちです。今後も、子どもたちが一層がんばっていけるよう、家庭、学校、地域で連携を深めていきましょう。

問い合わせ先
富士吉田市教育委員会
富士吉田市立教育研修所
TEL 0555(22)1111(内線515)
直通 0555(23)1766